北海道・修学旅行特集

「探究」「体験」学びのテーマいっぱい

――環境・SDGs・共生・防災～多彩なプログラム――

新たな魅力を備えた北海道に

観光機構　道外学校の修旅誘致に注力

雄大な自然と独特の歴史文化を持つ北海道。民間研究機関の都道府県魅力度調査で16年連続1位に選ばれるなど魅力いっぱいの地域で、観光資源も多く、国内外からたくさんの人が訪れる。北海道の面積は、国土の22%を占める。道都「札幌」がある道央圏を中心に、サハリンを望む道北圏、津軽海峡を挟んで本州に接する道南圏、そして、北方領土や流氷の海に続く道東圏までと、非常に広い。

そこに全国最多の179市町村がある。それだけに地域の個性は豊かで、環境、SDGs、共生、防災などさまざまなテーマでの修学旅行が実施できる地域でもある。いま、新型コロナの影響を受けた修学旅行も、2019年前の状況にと回復しつつあり、北海道では、改めて官民一体となって、道外からの誘致拡大に向けて積極的な取り組みを進めている。

新たな魅力となる施設や取り組みが

道外からの修学旅行は、新型コロナの影響で減少した。その後、5類移行を受けて、22年度には2万6212人と7万の2020年度には以前の1に、21年度も約3分の1の7万9689人にとどまった。

しかし、修学旅行を巡っては、物価の高騰やバスのドライバー不足、オーバーツーリズム、温暖化による災害リスクなどの問題が生じるとともに、「総合的な学習（探究）の時間」の設定に伴う学校側のニーズも変化。これらに対応した受け入れが求められている。

そうした中で北海道では、16年の北海道新幹線の函館開業後も、従来から広く知られる観光資源だけでなく、新たな教育旅行学習のコンテンツとなる魅力ある施設や取り組みがたくさん生まれてきている。

20年には先住民族であるアイヌの歴史・文化の復興拠点となる民族共生象徴空間「ウポポイ」（白老町）が開園し、21年には「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録が実現。

23年には日ハム球団のスタジアムを中心とする「ボールパークFヴィレッジ」（北広島市）のオープンや、大規模な半導体企業（千歳市）の立地。さらに先端技術の農業分野での拡大、宇宙産業へのチャレンジ、アドベンチャートラベルの活発化などだ。

北海道観光機構では、これらを生かしたコンテンツづくりを進め、道や関係団体と連携して、新たな魅力を加えた北海道を全国にPRし、修学旅行の誘致拡大に取り組んでいる。

充実する修旅誘致支援策

観光機構では、今年度学校の教職員の事前下見の教育旅行活性化事業の中で説明会・相談会を拡充して開催するのをはじめ、地域の受け入れ態勢づくりや、来道校に対する支援などを強化。積極的な取り組みを進めており、活用を呼び掛けている。

【誘致宣伝】

○説明会、相談会の開催
東京、大阪、宇都宮、仙台の4都市を予定と連携協力し、地域の特色や強みを生かしたコンテンツ開発など教育旅行の受け入れ態勢づくりに注力。誘致拡大に向け積極的な取り組みを進めている。

○旅行会社や学校の訪問活動

【受け入れ態勢づくり】

○コンテンツ開発など地域の受け入れ態勢づくりを促進

【来道校に対する支援】

○事前下見の招待
来道予定校や検討中の実際に現地や宿泊施設を見ることで安心して計画してもらえるよう、事前下見のサポートに力を入れている。

現地までの交通費と宿泊費を機構が負担する。

○事前学習アドバイザーの派遣
北海道での修学旅行を予定している学校が実施する事前学習の際に専門講師の派遣を行う。講師費用は機構が負担する。

○教育関係者の視察招待
道内各地の教育旅行コンテンツを実際に見てもらうため、全国の教育関係者を対象とした視察招待を行っている。交通費と宿泊費を機構が負担する。

【温暖化と環境問題を考える】

札幌市＝SDGsの未来都市づくり

豊浦町＝養殖現場から見る海洋環境など

■道南圏（渡島、桧山地域）

北海道の最南端に位置し、古くから北海道の玄関口として開発の歴史を紡いできたエリアで、幕末や開拓以前からのさまざまな史跡や文化が集積など再エネ活用の取り組み

【温暖化と環境問題を考える】

札幌市＝SDGsの未来都市づくり

豊浦町＝養殖現場から見る海洋環境など

■道南圏（渡島、桧山地域）

北海道の最南端に位置し、古くから北海道の玄関口として開発の歴史を紡いできたエリアで、幕末や開拓以前からのさまざまな史跡や文化が集積

厚真町、洞爺湖町、壮瞥町＝噴火や地震災害からの復興や防災の取り組み

【再エネのまちづくりを学ぶ】

石狩市＝洋上風力発電

各地の主な取り組み

こうした中で各地域では、観光機構や関係機関と連携協力し、地域の特色や強みを生かしたコンテンツ開発など教育旅行の受け入れ態勢づくりに注力。誘致拡大に向け積極的な取り組みを進めている。

各エリアの主な取り組みを紹介する。

■道央圏（石狩、後志、空知、胆振、日高地域）

人口約200万人の道都「札幌」を囲む政治経済の中心地で、各種産業や商業施設、文教施設、サービス業などが集積。

近郊には農地や海、森林が広がり、農業、酪農業、水産業のほか、大自然を生かした観光地も多いなどバラエティに富んでおり、それらの特徴を生かした多様なテーマでの学習ができる。

【自然や社会との共生を考える】

白老町＝「ウポポイ」でのアイヌ文化体験プログラムなど

【災害復旧と防災を学ぶ】

厚真町、洞爺湖町、壮瞥町＝噴火や地震災害からの復興や防災の取り組み

【再エネのまちづくりを学ぶ】

石狩市＝洋上風力発電など再エネ活用の取り組み

【受け入れ態勢づくり】

○コンテンツ開発など地域の受け入れ態勢づくりを促進

【来道校に対する支援】

○事前下見の招待
来道予定校や検討中の

北海道観光機構誘致担当部長　**長野　博樹**さん

多様化する学習ニーズに応える

コロナが落ち着いて以降、明らかに修学旅行に変化が出ていることを実感しています。

学校における「総合的な学習」「総合的な探究」の時間の導入により、従来からの施設や体験に加え、より真の学びができるコンテンツを求める声が多くなっています。

石狩市で進めているGX学習はその代表例といえますが、DX、最先端産業、防災、減災、観光教育、共生などの幅広い視点での学習コンテンツが求められています。

5月に東京都の区立中学校生120人が来道しました。十勝地方で道外中学校の受け入れは初でしたが、更別村でAIを活用したスマート農業体験やスーパービレッジ構想について勉強。そのあと鹿追町の環境保存センターでSDGsやジオパークを学習、帯広畜大で学食体験などを行い、さらに、農業運動会への参加や然別湖の大自然を満喫するアクティビティも実施し、大変好評でした。

このように修学旅行は多様化しています。北海道は、それに応えるコンテンツづくりを進めています。修学旅行を通じ、「生きる力を育む」北海道で広がる未来への活力を得ていただければと思いいます。ぜひ、検討をお願いいたします。

道外学校からの声

太田鋭一さん　小川幸男さん

（埼玉県さいたま市立植水中学校長）

北海道での修学旅行は4回目で、本校では定着しています。5月に北海道新幹線を利用し、2泊3日の日程で函館にまいりましたが、魅力は班別研修です。函館はコンパクトな街で、生徒が調べ歩くにも街を縦断する市電があって便利です。

近代の歴史を学ぶコンテンツが豊富で、元町やベイエリアの雰囲気も非常にいい。郊外に出ると北海道らしい自然が広がっている。

生徒だけでなく保護者からの評判も高いので、今後、北海道への修学旅行は増えていくと思われます。

（東京都大田区立羽田中学校長）

初めて北海道で実施しましたが、天候にも恵まれ充実した内容の修学旅行ができました。1日目は函館を見学。2日目から、各地に分かれファームスティを行いました。

生徒の多くは1次産業体験が初めてで貴重な経験になり、大自然の中での活動は北海道ならではと感じました。

ファームスティ先で生徒4人が発熱。しかし、農協職員のサポートのおかげで全員揃って東京に戻ることができた。函館の美しい夜景と地元の温かい心遣い、生徒の記憶に深く残る修学旅行になったと思います。

"脱炭素"の先進地、石狩市で学ぶ

「石狩鍋」発祥の地

道都「札幌」に隣接し、北海道の母なる川・石狩川の河口に位置する石狩市。かつてサケとニシンの漁でにぎわい、郷土料理「石狩鍋」発祥の地としても知られる。

このまちが、近年は脱炭素の先進地として国際会議の場で紹介されるなど、注目を集めている。

大規模掘り込み式の国際貿易港「石狩湾新港」があり、全国に先駆けた洋上風力発電所が稼働。新港の背後にある3千ヘクタールの工業団地には、再生可能エネルギーを活用したデータセンターの立地が2012年。これを受けて陸上風力や太陽光、木質バイオマスなど多様な再エネ電源の集積が始まった。

市では、「地域でつくられた再エネを地域で活用する」という意味を持つ「地産地活」が合言葉。洋上風力発電など、集積が著しい地元産再エネを積極的に誘致している。これが持続可能な市政運営の財源確保や経済振興、地域のデジタル化につながっている。

加えて、再エネのまちづくりを生かした教育旅行の誘致も手掛ける。

全国の若い人たちに来てもらい、実際の現場を見て学び、持続可能な社会を考える、その場を提供する方針だ。

そして、国内のDX・GX人材の育成や交流人口の拡大にもつなげたいと思いは熱い。

杉並工科高校との連携

オーダーメイド型教育旅行を提案

京都立杉並工科高校との連携協定締結だ。

25年度から探究的学習の文脈も踏まえ、同校の教育旅行を継続的に受け入れる。

生徒たちに事前学習で市の歴史や課題を知ってもらい、実際の現場で洋上風力発電やデータセンター、デジタル技術を活用する地場産業を見学し、学び、考えてもらう。

また、地元の中学生との交流も計画している。

このたびの教育旅行を通じた交流がしっかり根付き、発展していくことが楽しみだ。

石狩市＝人口・5万6931人（5月現在）▽面積・約722平方キロ▽市の花・ハマナス▽市の木・カシワ▽市の鳥・カモメ

石狩市企業連携推進課長　**加藤　純**さんに聞く

――杉並工科高校とはどんな交流を。

11月に1T・環境科の2年生80人を受け入れます。実際の開発現場や自然保護施設などを見学し、その取り組みや課題を学んでもらいます。

地域が存続し発展していくためには、変革を起こす人材が求められています。市民の方々との交流を通じて地域に寄り添う共感力や課題を抽出する感受性などを養う、机の上で学べない機会になればと願っています。

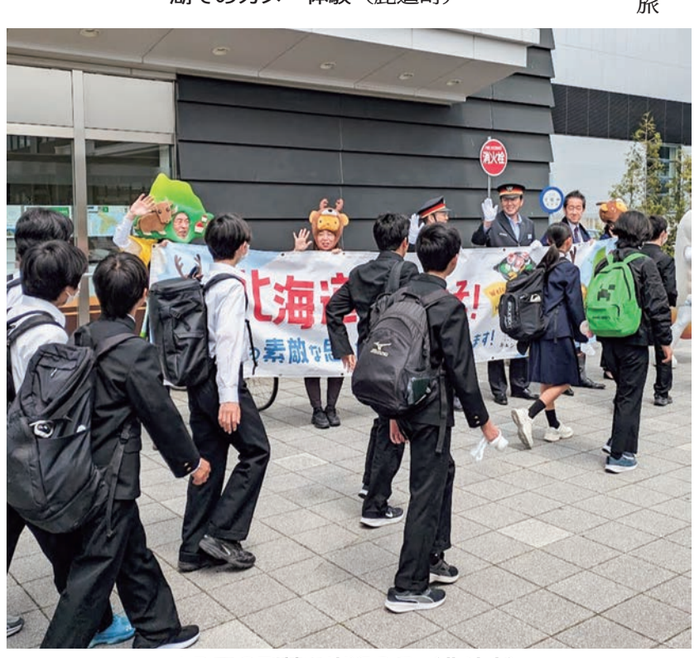
――今後に向けた取り組みと期待を。

新港地域が全国の探究学習のフィールドになればと考えています。

市が進める再エネの「地産地活」による産業おこしやまちづくりの取り組みを生かし、「脱炭素」「デジタル」「地域課題」への対応をテーマとしたオーダーメイド型の教育旅行を提案することで、若い世代を呼び込み、将来的な石狩市の発展につなげたいと考えています。

全員で講話を聴く～たくさんの手が上がった（更別村）

湖でのカヌー体験（鹿追町）



ＪＲでの到着を出迎える（北斗市）

酪農体験を楽しんだ（八雲町）

大規模な洋上風力発電が展開されている

■道東圏（十勝、釧路、根室、網走地域）

見渡す限りの農地と豊穣の海に面した広大なエリアで、北海道の耕地面積の22%を占める十勝平野の農業や酪農業では、先端技術の活用が進んでいる。

さらに世界自然遺産の知床半島、釧路湿原、阿寒湖、冬には流氷が押し寄せるオホーツク海など、自然環境と温暖化を考える絶好のフィールドでもある。

国際関係が注目される中、北方領土学習の問いかけも増えている。

【先端技術の活用とSDGsを考える】

更別村、鹿追町＝スマート農業やバイオマス発電など

【宇宙産業への挑戦を学ぶ】

大樹町＝宇宙ロケット開発や打ち上げ

【北方領土問題を学ぶ】

根室市、標津町、別海町、中標津町、羅臼町＝講座や自で見る運動への参加

■道北圏（上川、留萌、宗谷地域）

日本列島の最北端に位置する雪の多いエリアで、離島もある。有数の農業、酪農地帯であるが、過疎対策が大きな課題で行誘致の取り組みや各エリアの状況を紹介してきた。

北海道では他の都府県に見られない豊かな自然や歴史文化に加え、いま、新たな魅力が続々と生まれてきている。

179市町村、各地域、それらを含めそれぞれの特徴や強みを生かしたコンテンツづくりを進めている。言うまでもなく、修学旅行は学校生活の一番の思い出となる行事だ。

北海道での修学旅行を楽しみ、そして学び、考え、未来への力と希望を得ていただくことを心から期待したい。

以上、北海道の修学旅行誘致の取り組みや各エリアの状況を紹介してきた。

■道東圏（十勝、釧路、根室、網走地域）

見渡す限りの農地と豊穣の海に面した広大なエリアで、北海道の耕地面積の22%を占める十勝平野の農業や酪農業では、先端技術の活用が進んでいる。

さらに世界自然遺産の知床半島、釧路湿原、阿寒湖、冬には流氷が押し寄せるオホーツク海など、自然環境と温暖化を考える絶好のフィールドでもある。

国際関係が注目される中、北方領土学習の問いかけも増えている。

【先端技術の活用とSDGsを考える】

更別村、鹿追町＝スマート農業やバイオマス発電など

【宇宙産業への挑戦を学ぶ】

大樹町＝宇宙ロケット開発や打ち上げ

【北方領土問題を学ぶ】

根室市、標津町、別海町、中標津町、羅臼町＝講座や自で見る運動への参加

■道北圏（上川、留萌、宗谷地域）

日本列島の最北端に位置する雪の多いエリアで、離島もある。有数の農業、酪農地帯であるが、

【温暖化と環境問題を考える】

札幌市＝SDGsの未来都市づくり

豊浦町＝養殖現場から見る海洋環境など

■道南圏（渡島、桧山地域）

北海道の最南端に位置し、古くから北海道の玄関口として開発の歴史を紡いできたエリアで、幕末や開拓以前からのさまざまな史跡や文化が集積

【再エネのまちづくりを学ぶ】

石狩市＝洋上風力発電

【温暖化と環境問題を考える】

札幌市＝SDGsの未来都市づくり

豊浦町＝養殖現場から見る海洋環境など

■道南圏（渡島、桧山地域）

北海道の最南端に位置し、古くから北海道の玄関口として開発の歴史を紡いできたエリアで、幕末や開拓以前からのさまざまな史跡や文化が集積

厚真町、洞爺湖町、壮瞥町＝噴火や地震災害からの復興や防災の取り組み

【再エネのまちづくりを学ぶ】

石狩市＝洋上風力発電など再エネ活用の取り組み

【温暖化と環境問題を考える】

札幌市＝SDGsの未来都市づくり

豊浦町＝養殖現場から見る海洋環境など

■道南圏（渡島、桧山地域）

北海道の最南端に位置し、古くから北海道の玄関口として開発の歴史を紡いできたエリアで、幕末や開拓以前からのさまざまな史跡や文化が集積

【再エネのまちづくりを学ぶ】

石狩市＝洋上風力発電

【温暖化と環境問題を考える】

札幌市＝SDGsの未来都市づくり

豊浦町＝養殖現場から見る海洋環境など

■道南圏（渡島、桧山地域）

北海道の最南端に位置し、古くから北海道の玄関口として開発の歴史を紡いできたエリアで、幕末や開拓以前からのさまざまな史跡や文化が集積